

○議長（村田千鶴子議員） 次に、権田真知子さん。

〔7番 権田真知子さん登壇〕

○7番（権田真知子さん） 権田真知子です。よろしくお願ひいたします。

それでは、通告に従ひまして質問いたします。

島田市の河川敷グラウンド公園利用についてです。島田市の河川敷グラウンド公園利用については、グラウンドゴルフ、サッカー、野球、ヘリポート、それ用と名目分けされ、各スポーツに対応したことにのみ無料使用許可となっており、団体利用のないときは市民が自由に散歩やスポーツ、遊びに利用しています。各場所の名目から外れたスポーツや遊びでの利用について、申請許可を取ろうとすると、前例がないという理由で施設が利用できなかつたり、利用内容によって施設利用が有料になつたりするのは理不尽だと思つております。そこで、質問いたします。今後も名目がないことでの理由は許可しない、または有料利用とするのでしょうか。

2つ目、利用許可の申請について、電話やインターネットで取ることができようにするなど、利便性を向上させる予定はあるのでしょうか。

次に、子供の教育についてです。現在、子供たちに対してよい高校、よい大学、よい会社へ就職するという価値観が重視されており、どう生きていくか、どのようなライフスタイルにするのか、人生に目標を持つていくなどということは教育から欠けているように感じます。私はさまざまな夢や知識を小学生の段階から持つことができるように、子供にとって遠い存在かもしれないですが、金融や経済の仕組みなども教えていってほしい。最も子供の身近にいる大人は親や教師であり、親の職業や学校の先生、有名な職業だけが子供の描く将来像のモデルになります。しかし、そういった狭い範囲の情報ではなく、いろいろな人から情報を早くから教え、将来の選択肢を広げてほしいと思います。そこで、以下について質問いたしま

す。

小・中学校ではキャリア教育をどのように教えているのでしょうか。

以上で、壇上での質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

〔7番 権田真知子さん発言席へ移動〕

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

〔教育長 濱田和彦登壇〕

○教育長（濱田和彦） 権田さんの1の(1)の御質問についてお答えします。河川敷には競技専用を整備された施設と、競技を限定しないで多目的に利用できる施設がございます。河川敷の競技名がついている施設は、設置目的としている競技のスポーツ環境を維持するため、それ以外の利用については関係団体との調整が必要になりますので、その都度、御相談していただきたいと考えております。また使用料につきましては、都市公園条例に定められている有料公園施設と使用料の規定がない無料施設がございます。無料施設の利用については基本的に使用料はいただきませんが、物品販売や興行など営利目的の施設利用に該当する場合は使用料をいただいております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えします。スポーツ施設利用申請につきましては、現在は予約日を設けて窓口により申請の受付をしております。また、施設利用の際には施設利用許可書の携帯をお願いしているところから、現在、電話申請については受け付けておりません。インターネットでの予約システムについては、導入するに当たり多額な費用が見込まれ、その費用対効果などを検討する必要があると考えておりますことから、現時点では導入する予定はございません。なお、利用者の利便性の向上を図るため、今後、現在の利用予約方法については、他市の取り組み状況なども調査し、研究してまいりたいと考えております。

次に、2の(1)の御質問についてお答えします。

エリア教育とは、社会の中で自分らしい生き方を  
実現していくことを促す教育のことです。その中  
の一つとして、小学校では地域の商店を訪問しイ  
ンタビューする活動を通して、将来役立つコミュ  
ニケーション能力を育てています。中学校では民  
間企業や公立の施設等で3日間程度働くことを体  
験する職業体験学習を行っています。製造、接客、  
販売、福祉などのさまざまな職種について実際に  
働いている方とかかわりながら学習しています。

ほかには島田市商工会青年部が主催し、一昨年  
の文部科学大臣賞を受賞した小学生が対象のジュ  
ニアエコノミーカレッジという取り組みもありま  
す。このジュニアエコは小学生が模擬株式会社を設  
立し、計画、仕入れ、製造、販売、決算、納税ま  
での一連のサイクルを体験するプログラムのこと  
です。一連のサイクルには決まったやり方あり  
ませんので、子供たちが正解のない問題に主体的  
に取り組むカリキュラムとも言えます。

また、進路指導にかかわらず、日々の生活の中  
で提出物をしっかり出すというようなことも、将  
来働く上では大変大事なことです。そういった生  
活の指導もキャリア教育の一つであると考えます。

以上、答弁申し上げます。

なお、再質問については担当部長から答弁させ  
る場合がありますので、よろしくお願いいたします。

○議長（村田千鶴子議員） 権田さん。

○7番（権田真知子さん） 御答弁ありがとうございます。それでは、2回目の質問をさせていただきます。小・中学生の段階では将来の夢や将来どう生きていくかの選択肢や働き方、職業に関する知識について、身近にいる自分の親を中心とする狭い知識しかありません。選択肢を広げてやりたいのですが、親の力だけでは限界があります。学校ではどのようにしておりますでしょうか。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） 先ほども少しお話が出まし

たが、地域の人材を生かしてクラブ活動や、それ  
から行事、そのほかの教育活動にかかわってら  
っています。子供たちがいろいろな職業人、また  
はいろいろな人たちと触れ合う機会を設けていま  
すから、そういう中で子供たちはさまざまな学び  
をしているのではないかと思います。また、中学  
校ではいろいろな職種の方を招いて職業人講話を  
行っています。仕事の内容や苦勞、やりがいなど  
の話をしてもらっています。これまでも警察官や  
看護師、料理人、農家など幅広い職種の方を講師  
に招いており、児童・生徒はそうした活動を通し  
て自分の価値観になかった生き方や職業の選択肢  
について気づくことができていると考えておりま  
す。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 権田さん。

○7番（権田真知子さん） 最後に、私の要望を述  
べさせていただきます。職業講話の講師において、労  
働者の立場の方が多く感じます。もっとい  
ろいろなスタイルを持っている方を講師として招  
いてはどうでしょうか。海外では小学生から投資  
の勉強をしていることも聞いたことがあります。  
島田市の学校でも、例えば海外で何社も起業して  
いる方や、実績のある企業コンサルタントや投資  
のプロなど、保護者や教師の価値観にない職業  
の方を招き、子供の夢や将来の選択肢を広げるよ  
うな取り組みをしてもらいたいと考えます。

以上で質問を終わらせていただきます。ありが  
うございました。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） ありがとうございます。職  
業の選択肢を広げるといことは大変大事なこと  
だと思っています。今、御提案があったような内  
容についても、また校長会と相談しながら検討さ  
せていただきたいと思います。

でも、もう一つ考えていただきたいことは、家  
庭の教育力だと思います。学校だけでキャリア教

育をするのではなくて、家庭でのその力というのは大変大きいと思います。例えばテレビや新聞の中にさまざまな人が紹介されます。また記事として取り上げられます。それはまさに生きた教材になると思っています。保護者の皆さんがこういう職業がある。またこういうすばらしい人がいるというようなことを子供たちとお話をする、会話する、家庭での会話の中で職業選択肢が広がるし、視野が広がるのではないかと思います。そういう意味では、家庭の力というのを大事にしながら、学校教育も充実していきたいと考えております。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 時間がありましたので、少しお話をさせてください。今、教育長のほうから家庭の力、家庭の教育力というお話がありましたが、加えてやはり大人の我々がいろいろな職業を持っている中で、例えば結婚とかいうようなことに関してもそうなのですが、結婚はすばらしい、あるいは家庭生活はすばらしいという、そういうメッセージを若い人たちや子供たちに発しているか。労働に対しても、それから日々の自分たちの役割、仕事に対してもやはりやりがいがあるのだ、達成感があるのだ、役に立っているのだというようなことを発信しているのかどうかというのは、子供たちの選択肢にとっても大きくかわることだというふうに思っております。ですから、投資のプロを招く、そういったもちろん経済分野、あるいは事業家が面接になって、高校で企業の面接の模擬をやったり、若い企業家の方たちもいろいろと産業界に若手を引き込むためにいろいろな役割を果たし、実践はしているのですが、やはりその中で我々一人一人が次の世代を切り開く子供たちの、その職業の選択肢において自分たちが生き生きと仕事をしているのか、暮らしているのかというような発信が子供にとってとても大事なことなのかというふうに思っています。

もう一つ、私は思っていることは、今、小・中学校においては地域を知ることであったり、あるいは就労体験であったり、子供たちもこどもわくワークなんていう取り組みもありまして、一日市長になりたいというような子供たちも来たりするのです。さまざまなそういった職業体験の場等があります。そこもやはりさまざまな大人の人たちがどうかかわっていくか。あるいは親がそれをどんなふうに進めていくかということで、子供たちの選択の幅も広がっていくと思います。行政ももちろん努力しなければいけないし、民間の経済団体もこれは本当に人材というのはまさに企業にとって生命線でありますから、一生懸命にその人材の確保と人材の育成ということに力を尽くしていると思いますが、私たち自身の働き方であったり、職業に対する考え方であったり、こういったものがより肯定的なものとして生き生きと発信できるならば、次の世代の人たちも自分に合った職業を選択できるのかというふうに思います。今ある職業のうち二、三十年後には半分近くなくなるかもしれないと言われている時代であります。しかしながら、今ない職業も新たに生まれてくる時代だろうというふうに思っています。そういった職業の選択の可能性をみずから切り開ける、それを考えることのできる子供たちを育ててまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 権田さん。

○7番（権田真知子さん） 御答弁ありがとうございます。現在、子育て中の母として、経営者として、子供たちに伝えていきたいと思っております。ありがとうございました。